

Active アウティブ！

～つくって あそんで～

子どもたちが自ら進んで活動できるようにしたい！
子どもたちが生き生きと活動できるようにしたい！
子どもたちの新たな気付きをたくさん引き出したい！

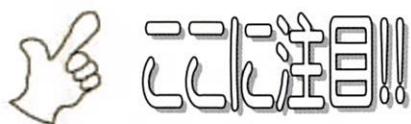


そのためには…？



大切なポイントがこの中に
たくさん詰まっている！！

Active アクティブ！



Active

子どもたちの主体的で、対話的な活動を生み出すための具体的な工夫を記しています。

気付き！

気付きの質を高めるための手立てや、子どもの活動を価値付ける具体的な教師の関わり方を記しています。

あるある NG!

指導の中で、子どもたちの意欲が持続しなかったり、活動が停滞してしまったりすることはないでしょうか。失敗しがちな教師の関わりを記しています。

はじめに

生活科を指導する教師の皆さん、「Active（アクティブ）！」を読んでいただき、ありがとうございます。

右の子どもの言葉をお読みください。

どこが素敵な表現ですか？

そして、どんな言葉をかけますか？

自分の思いや願いに向かって、物を作ったり、作ったもので遊んだりする子どもの姿は、とても生き生きとしています。作っては遊び、遊んでは作り直し……と活動を繰り返す中で、気付きや工夫も生まれてきます。

生活科の学習を通して、子どもは心も豊かに変容していくのです。

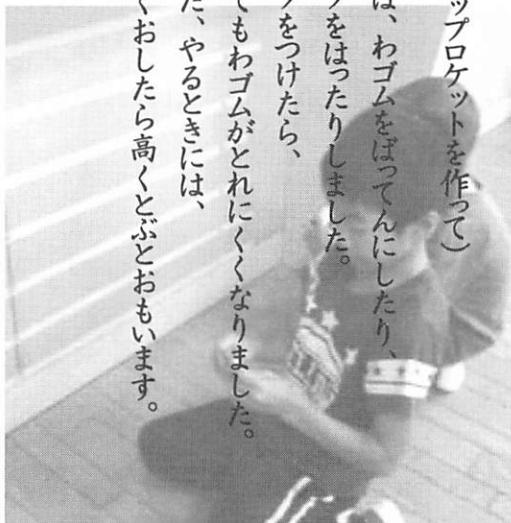
感性豊かで、様々なことに前向きな子どもの心を育てるには生活科がおすすめです。

生活科は「人・もの・こと」という身近にある対象に子どもが関わる中で、自ら気付いたり、学んだりしていくことを大切にした教科です。関わりを通して、子どもには「自分の思い・願い」が生まれます。

教師はその実現に向けて、一人一人に適切に関わることが大切です。子どもの活動のよさや気付きを価値付けたり、教室全体に広めたりしていくことで、楽しく、意欲的に学び続けることができます。

（紙コッププロジェクトを作つて）

ぼくは、わゴムをぱつんにしたり、テープをはつたりしました。
テープをつけたら、おしてもわゴムがどれにくくなりました。
あした、やるとときには、つよくおしたら高くとぶとおもいます。



この「アクティブ！」から「単元の進め方」「教師の関わりとして大切なこと」「大切にしたい気付きや学びのいろいろ」を感じていただけると幸いです。



「人・もの・こと」って何？

人……学校の教職員、他の学年や学級の子ども、地域の人、ゲストティーチャーなど。

「人」と関わることで気付きが広がったり、深まったりします。

もの……校舎、公園や図書館などの公共物、地域の店やその中にある道具、アサガオや野菜、虫などの生き物（栽培、動物など飼育）、樹木や草花、雪などの自然物、遊びを通して見付けたものや制作したおもちゃなど。

「もの」との関わりから、驚きや不思議さ、疑問や工夫が生まれます。

こと……探検、地域行事、遊びの工夫、校内の交流活動、幼稚園や保育園との交流、○○ランドや○○まつりのような広場や活動そのもの、お手伝い。

「こと」を対象とした場合、「人」との関わりやつながりが生まれるようにすると学びが深まります。



適切な教師の関わりは？

具体例はページをめくると載っています。子どもが「人・もの・こと」に関わり活動した時に生まれた思いや願いを大切にします。

- ①声を掛け思いや願いに寄り添う。実現に向けて励ます。一緒に○○する。
- ②思いや願い、活動のよさを認める。価値付ける。他の子に広げる。
- ③活動が停滞した時に適切に方向付ける。単に教えるよりも気付かせる。
- ④記録を積み重ねることで、自分の活動や関わりのよさに気付かせる。

* カードや付箋など。様々な方法は後述。

- ⑤評価する（伸びた力、学びの具体、足りない力、次の活動に向けて）。
- ⑥次の学びを予想する。次の学びと子どもの思考、気持ちをつなぐ。

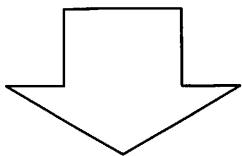
一人一人の考え方や活動、学びは違います（傾向の把握や分類は可能です）。
ですから、教師も日常から確実に記録、評価ができるようにしましょう。
最初は1授業時間で数人しか関わりをもてないこともあります。そのような場合、
子どもが書いたカードなどから、気付きやよさを見取ります。また、活動を振り
返り、自分自身のよさに気付かせることも大切です。



生活科で育てたい力とは？

評価の観点は次の通りです。

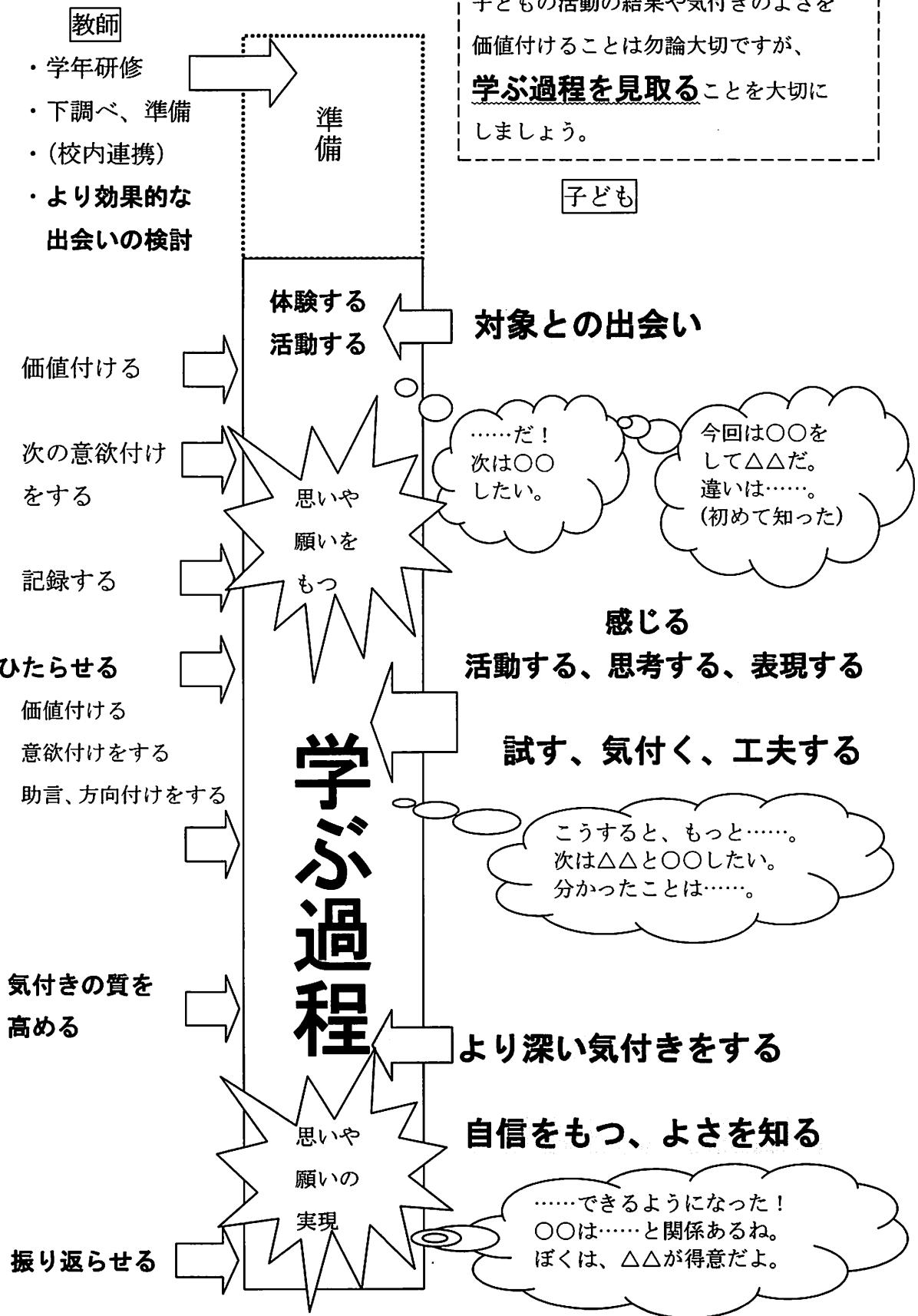
- ◎具体的な活動や体験から、対象と自分との関わりに興味・関心をもつ
- ◎自己自身や自分の生活について理解を深める
- ◎生活上必要な習慣や技能を身に付ける



そして、このような子どもを育てましょう。

- ・進んで行う
 - ・対象に直接働きかける
- ・自分の思いや願いを表現する
 - ・試す、工夫する
- ・活動にひたる
 - ・考える、予想する
- ・感じる
 - ・気付く、分かる
- ・比べたり関連付けたりする
 - ・自分のよさや成長を知る
- ・自分の生活に生かす
 - ・よりよい生活を考える、創る

<<学習の展開例>>





■はじめに P1

■自然や物を使った遊びで
大切にしたいこと P6

【1年生編】 P11

■夏～砂や土で～ P12

- ・活動は、個⇒グループ⇒クラス全体
- ・事前の準備をしっかりと！

■夏～水で～ P15

- ・プール⇒おもちゃ作り⇒遊び作り

■あきをたのしもう P18

- ・単元で大切なのは、
秋の事象との出会い＆つながり

■かぜさんと P20

- ・風さんレーダーで風探し！
- ・おもちゃの工夫をするために
見通しを！
- ・すぐに試せる「室内」は、
「外」での活動のために！
- ・「○○したい」を生み出す
環境づくりを！

■葉っぱや木の実で P24

- ・初めはダイナミックな遊びから！
- ・おもちゃ作りは
一人一人の思いを大切に！

■ふゆをたのしもう P26

- ・米ぞり作りにも、
一人一人の思いを生かす！

【2年生編】 P27

■動くおもちゃであそぼう P28

- ・「動くおもちゃであれば
何でもよい。」は大間違い！
- ・単元の柱「○○名人！」
- ・見本のおもちゃと友達のおもちゃ
を比べる！
- ・動くおもちゃあれこれ

■おもちゃランドを全校へ P34

- ・決定する前にたっぷり遊んでみる！
- ・「作って遊んでまた作って」を繰り返す
- ・リハーサルでおもちゃを見つめ直す！
- ・全校児童を招待する！

■ランドのコーナーの種類、
遊び方、ルールの工夫 P36

- ・おもちゃランドのお店！
- ・お客さんが楽しめるお店を考える！
- ・お客さんを楽しませる工夫に気付く！

■気付きの質を高める P38